

令和7年度第3回東郷町地域公共交通会議 議事録

日時 令和7年12月22日（月）

午前9時30分から午前11時15分まで

場所 東郷町役場2階 大会議室

出席者（敬称略・順不同）

	役職	所属等
1	会長	名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授
2	副会長	東郷町福祉こども部長
3	委員	諸輪地区代表
4	委員	祐福寺地区代表
5	委員	白土地区代表
6	委員	瀬戸自動車運送株式会社 取締役
7	委員	名古屋タクシー協会 専務理事
8	委員	東郷町まち整備部長
9	委員	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事
10	委員	中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官
11	委員	名鉄バス株式会社 交通企画官
12	委員	愛知県バス協会 専務理事（代理出席：業務課長）
13	委員	愛知県都市・交通局交通対策課 担当課長
14	委員	愛知県愛知警察署 交通課長（代理出席：係長）
15	委員	愛知県尾張建設事務所 維持管理課長
16	委員	みよし市経営企画部 企画政策課主幹
17	委員	豊明市行政経営部 企画政策課長（代理出席：主査）

欠席者3名、傍聴者7名

1 会長あいさつ

- ・ コロナ禍後、公共交通は順調に回復してきたが、最近頭打ちの状況が見えてきたと思っている。特に通勤・通学といった大きな太い線が、頭打ちになってきたと思い心配している。一方で地域内の移動は、増えてきている気がしており、コロナ禍を境に人々の移動の形態が変わってきて、高齢化の進展もあり、地域内の移動は一層重要になってきていると感じている。
- ・ 東郷町では今、計画の見直し作業を行っているので、この見直しに、これからの町民の方々の生活が、いかに反映できるか、この辺が重要になると思っている。今日は課題整理について皆さんに御協議いただくので、そういった視点も含めて、忌憚なきご意見いただきたい。

2 議題

(1) 令和7年度東郷町地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について

(資料1-1～資料1-4)

【事務局資料説明、愛知県都市・交通局交通対策課補足説明】

【諸輪地区代表】

- ・ 資料内の本町における地域公共交通確保維持改善事業で、名鉄バス「星ヶ丘・豊田線」となっているが(今は星ヶ丘まで行っていないのに)「星ヶ丘」という言葉が残っているのは何か意味があるのか。

【事務局】

- ・ 以前は星ヶ丘まで行っていたため、「星ヶ丘・豊田線」の名称が残っていると思われるが、名鉄バスの路線名のため詳細はこちらでは把握してない。

【諸輪地区代表】

- ・ また星ヶ丘まで行くなれば別であるが、実態を表した名前にした方が良いのではないかな。
- ・ 資料1-3の7ページの考察に「令和3年度に路線再編したが不満が続出したが、その後再編から4年経ったことで周知が進んだことで不満割合が減少した」とあるが、不満が減少はしたのではなく、地区の住民が諦めてしまったことが現れたものだと思っている。

【事務局】

- ・ これはアンケートの結果であり、回答された方の全ての思いを推し量ることはできない。「満足」、「不満」、「どちらでもない」と回答されているが、「どちらでもない」という回答の割合は、今年度の調査では前回に比べて少なくなっているため、良くなった地域の方は良くなったと回答し、そうでない方は悪かったと回答し、自分の意思を表したものだと思っている。

【会長】

- ・ 不満割合が減少したというのは事実であるので、表記は良いが、その理由を事務局は「周知が進んだ及び生活に路線が定着してきたため」と考えているが、委員は「諦めたため」と考えている。ただ、その諦めたというのはある意味受け入れたということで、それは「生活に路線が定着してきた」という言葉にも含むことができるだろうというのが、事務局の

見解だと思う。少なくとも不満が表明されなくなった。諦めたのか受け入れたのか、そこは明確ではないが、結果としてはこのような形に現れたと思う。

【名鉄バス】

- ・ 路線名に関しては、この路線に限らず、現在は運行していない地名が残ったままの路線がある。国への申請やシステム等がこの名称で稼働しており、課題として認識しているので、変えられるタイミングを見計って実態に即した形にしたい。

【会長】

- ・ 以前「星ヶ丘・豊田線」で許認可受けており、今も系統の一部が残っているので名称がそのまま残っている。制度上の問題というふうにご理解いただきたい。一般名称の「東西線」と呼ばれることのほうが多いが、国への申請等、正式な書類の場合には「星ヶ丘・豊田線」の名称が出てくるとご理解いただきたい。

【愛知運輸支局】

- ・ じゅんかい君北コースは利用者数が伸びて輸送量も達成しており、平均乗車密度が2.4となっている。効率的な運行を目指すのであれば、平均乗車密度も上げていく必要がある。利用者数が伸びているから平均乗車密度も上がっているのか、トレンドを教えてください。

【事務局】

- ・ 前年度等の資料が手元になく比較確認できないので、確認して改めて回答させていただきたい。

★事後回答

会議後に前年以前の資料を確認した結果、北コースの平均乗車密度の推移は次の通り増加傾向にある。平均乗車密度：1.5 (R4)、1.8 (R5)、2.3 (R6)、2.4 (R7)。

【会長】

- ・ 無償の利用者が増えていると、平均乗車密度は上がらないため、利用者数自体が増えていても、無償の利用者の割合が増えていると、平均乗車密度は上がっていないかもしれないので、ご確認いただきたい。
- ・ 人数は追っていかねばならないが、無償の人ばかりであれば平均乗車密度は上がらない計算式^{※1}になっているため、町として必ずしもそこを追う必要はない気はする。

★事後補足

※1 平均乗車密度の計算式：運送収入÷（実車走行キロ×平均賃率）

- ・ 中部様式 10 ページの「アンケート調査」の文言は削るということか。

【事務局】

- ・ アンケート調査は令和7事業年度に実施したため、今後の対応方針の項目からは削る予定である。

【会長】

- ・ 10 ページ「直近2年間の二次評価の活用・対応状況」の最後に「今後の対応方針」とあるが、この「今後」は、いつのことを書けば良いのか。

【愛知運輸支局】

- ・ 令和6年度の二次評価を行ったのは令和7年3月であり、ここの「今後の対応方針」は、

そこの対応を踏まえた結果と直近のものを書いていただければと良い。

【会長】

- ・ 二次評価結果は令和7年3月に出て、その評価結果を令和7年6月の計画策定時にどう反映したかを「事業評価結果の反映状況」に書いて、それを受けて今後の対応を今の時点で書くのは酷である。6月に計画を立てて、事業が10月から開始されるので、10～12月の3か月しか経っていない中で書けというのはおかしいので、書き方を変えるも一つかと思うので、今後ご検討いただければと思う。
- ・ 10月にアンケート調査を行っているので、「アンケート調査」を削る必要はないと思う。

【事務局】

- ・ 承知した。

【会長】

- ・ 国様式の資料1-4、⑥「事業の今後の改善点」は、12月以降の改善点が書かれるべきなので、中部様式9ページ「今後の取組方針」の内容をここに書いていただきたい。
- ・ 東郷町の場合は順調にいており、目標が未達成だった項目は「セントラルの都市拠点内利用者数」のみで、37人足らなただけである。その理由は、ららぽーとと徳重を結ぶ路線が無くなったからか。

【事務局】

- ・ 無くなったのではなく、正確には休止している状態です。中間評価時の実績では1日100人強の利用者数があったことから、それを加味すれば目標を達成できたのではないかと思っている。

【会長】

- ・ 原因も明確なので致し方ない。
- ・ 中部様式、国様式の修正については、私と事務局にご一任いただき、運輸局に確認しながら進め、最終的に国に提出する。もし大きな修正があった場合は、改めて書面等でお諮りする。今の時点で修正する範囲はお任せいただくことを前提に、今回の中部様式、国様式に関してご承認いただくということでしょうか。

※議題(1)について、委員の承認を得た。

(2) 次期公共交通計画策定に係る各種ニーズ調査結果について

(資料2-1～資料2-5)

【事務局資料説明】

【愛知県バス協会】

- ・ アンケートをかなり精力的に実施され、色々な数字が明らかになってきたと思うが、資料2-4の利用者アンケートの回収率が低いと感じる。北コースや名鉄バスであればまだ良いが、東コース、南西コースの回収数が少ない。この辺の実態と乖離があるとちょっと問

題だと思うのが、底上げするかとか追加で調査するとかの検討はあるのか。

【事務局】

- ・ 追加のアンケートは、現時点では考えていない。
- ・ コース別の回答者年齢を見ると、東コース、南西コースでも 65 歳以上や 75 歳以上の普段バス使っていただいている方からの回答が一定数得られている。この結果が全てではないと考えているが、そこも含めてじゅんかい君全体としては、それなりの数が取れているので、基本的には全体の結果を使っていきたいと考えている。

【会長】

- ・ じゅんかい君全体では、それなりの数が集まっているので、全体の評価というのを信頼できるものとして捉えた方が良いと思う。
- ・ 東コースと南西コースは回収数が少なく、1 人、2 人の回答により分布が変わってしまうので、東コース、南西コースのコース別分布については、必ずしも正確な分布を表しているわけではないという認識は持っていた方がよいと思う。
- ・ 東コース、南西コースの回収率が低かった要因は分かるか。

【事務局】

- ・ 分からない。

【会長】

- ・ 回収率が低いのは関心の低さでもあるかもしれない。
- ・ アンケートは全体の傾向を知るために非常に重要な指標になる。例えばワークショップ等に出てくる個別の意見は当然大事ではあるが、多くの方がどう思っているかを測るのにアンケートは重要である。個別の意見に耳を傾けながら、全体としてはどう評価されているかをしっかり確認する必要があると思う。例えば、運賃の話でも、当然「高すぎる」という声もあれば、「安すぎる」という声もある。「高すぎる」という声が届きやすいが、全体としてどうかといった視点でこれらのアンケートを見るのは大事だと思う。
- ・ 住民懇談会を 13 地区+1 (全体) という、ここまできめ細やかに行っている自治体はない。すばらしいと思う。今回見直しにあたって、事務局としては町民の方々の意見をきめ細やかに吸い上げたいという姿勢の現れだと思う。さらに、来年度もう 1 回開催する。2 回地域懇談会を開催するとこさえ少ないのに、13 地区+1 で 2 回開催というのは本当に素晴らしいことだと思う。是非、こういう事務局の姿勢に町民の方々も答えていただくと良い。そして一緒に、より良いじゅんかい君をはじめ、地域の公共交通を築き上げていく、そういう取り組みになっていくと良いと感じている。
- ・ 今日お集まりの地区の方々等、皆さんもいろんな点でご協力いただいたと思うが、こういった取り組みを通じて、地域にとって良い乗り物を一緒に作り上げていくことができればと思う。

※議題(2)について、委員の承認を得た。

(3) 現地域公共交通計画の評価及び課題整理について（資料3）

【事務局資料説明】

【会長】

- ・ この後に策定する次期公共交通計画の方針を決めるには非常に重要な課題出しとなるので、不足している点、違う点など、様々なご意見いただければと思う。

【愛知県バス協会】

- ・ 運賃について、維持していくために値上げせざるを得ないとした場合に許容できる金額をアンケートで尋ねているが、値上げをするとしたらどこまでという質問に対し、現状の100円と同じ100円や無料との回答がみられる。そういう回答は、現実的には乗らざるを得ないというケースもあると思うが「値上げするなら乗らない」、気持ちとしては「値上げは許さない」と言っていると理解をされているのか確認したい。
- ・ 36ページの各調査から見える特徴というのは、非常に詳細な、細かなところを拾い上げて、かなり具体的なことをあげているのに対して、集約課題との対応が大雑把というのか、かなり概念的であるように思えるので、もう少し掘り下げた方が良い気がする。

【事務局】

- ・ 料金については100円や無料という選択肢から回答いただいたものである。100円や無料で回答した方が、値上げしたら乗らないまではアンケート結果からは推し量れない。ただ、「乗らない」とまでは言わないまでも、「値上げしてほしくない」という思いで回答されたと考えている。
- ・ 36ページ目の集約課題については、集約課題とそれに対応する部分がすべて繋ぎきれてない部分も多々ある。今、集約課題という形で3つ提示しているが、しっかりと方向性を決めた後に、集約課題との関係性等の見直しは必要だと思っている。本会議の中でも色々議論し、しっかりした形にしていきたいと考えている。

【会長】

- ・ 課題を集約する前に、特徴から見える課題をきっちり抽出して、その上で全体を包含するような大きな柱として集約課題が出てくると良いとの意見だと思う。特徴を羅列するだけではなく、集約する前の課題として纏まっていると良いと思う。

【諸輪地区代表】

- ・ 34ページのコラムに記載の三好自動車学校の送迎バスを活用した実証実験の利用状況はどうなっているのか。
- ・ 自動車学校の送迎バスが走らないところは利用できないが、他の取組みはこれから考えるのか。

【事務局】

- ・ 資料1-3の4ページに記載のとおり、11月末時点で登録者数36人、利用件数31件となっている。
- ・ 現在は自動車学校の送迎バスを活用した実証実験を行っているが、他の事業者や地域も含めて、使える資源がないかを常に考え、次の策を検討する。

【諸輪地区代表】

- ・ 36 ページの「課題整理にあたっての視点」に、「デジタル技術」について触れている部分がある。現在デマンドタクシーを実施しているが、予約が取りづらいという点で不満が高くなっている。福岡県的那珂川市では、路線バスが少ないところ、不採算になってしまったところを、AI オンデマンドバス「かわせみ」に切り替えて、予約に応じて AI がなんか最適なルートを考えて運行するというのを見た。また、近隣の長久手市でもデマンド型の乗合いタクシーの実証実験を実施中と聞いた。これから計画の見直しのなかで、他自治体の事例なども検討に入れて、不満を少なく、よりみんなが利用できる、公共交通にしたいと思う。

【事務局】

- ・ 現在のデマンドタクシーの実証実験において、AI までは使っていないがデマンド型の乗合いタクシーについても検討したことはある。今の形と乗合いの形を比較し、運行経費が大幅に下げられた今の形で運用している。近年 AI や DX の技術は進んできているので、利便性やコスト等を見極めながら今後も継続して検討していきたい。

【会長】

- ・ 集約課題の2番目「町内移動を便利なものにすると同時に」という部分に、DX、AI オンデマンド等の検討がここに含まれると思う。
- ・ AI オンデマンドは夢のように思われるが、全く夢ではない。例えば 11 ページに町内のバス交通に関する利用者 1 人あたりの町負担金というものがある。利用者 1 人あたり名鉄バス東西線は 395 円、じゅんかい君は 343 円、東郷・藤田医大バスは 2,388 円が町の税金から支払われている。デマンドタクシーは記載がないが 1100 円程度が支払われている。AI オンデマンドを入れると、システム代が含まれてくるので、この負担金がまだかなり高くなる。そのため、今のところタクシーを活用してやっているとご理解いただくと良いと思う。今後、ニーズ等々が変われば、乗り合いの方が効率的になる可能性はあるので、その時に検討が始まると理解している。

【名古屋タクシー協会】

- ・ 36 ページの公共交通の集約課題をまとめているが、最後が全て「必要」という言葉で結ばれている。課題という言葉から、「必要」という言葉は違和感がある。

【会長】

- ・ 「必要」と書く方法もあるし、一方で、課題＝「テーマ」と読み替えると、テーマでは「必要」では足りず、一步踏み込み、例えば「ネットワークの構築」や「継続的に運行できる体制の構築」などとする方法もある。どちらも間違いではないと思うが、町の他の計画等も踏まえ、バランス取りながらで良いと思う。
- ・ 運賃の書き方だが、例えば 20 ページ、1 乗車の運賃は「どの年代においても、1 乗車の運賃は 200 円まで許容できるという回答が最も多くなっています」ということだが、読み方として 200 円の割合が一番大きい、200 円以上と考えると、「全体で 6 割以上の方々が 200 円以上は許容できると答えている」ことになる。それから 24 ページも「登録のみしている人では、500 円の割合が最も高くなっています」とあるが、600 円、700 円、800 円と

回答した人を考慮すると、500 円以上を許容している人は半数ということになる。「それ以上をどれぐらい受け入れるか」というような表記にした方が、理解がしやすいと思うので検討してほしい。

【事務局】

- ・ 運賃の結果の表記については、参考にする。
- ・ 課題については書き方も含め、精査しながら、どういう形がふさわしいか考えていきたい。

【会長】

- ・ 34 ページ「公共交通を取り巻く社会環境の変化」の「リ・デザイン全国展開プロジェクト」は悪くはないが、町民の方が見ても分からないと思うので、国としての「リ・デザイン」の趣旨をもう少し噛み砕いて、何に取り組まれているか、何が重要かを記載してほしい。
- ・ 大きなマクロ的な動きとして、5 ページのパーソントリップ調査の上から2つ目のグラフの平成 23 年の第 5 回と令和 4 年の第 6 回を見ると、大きな変化がある。第 5 回のまでは、自動車の利用率 74%は右肩上がりで増えてきていたが、第 6 回で減り出した。これは、とても大きな変化である。「総トリップ」についても、66 千トリップから 61.6 千トリップに減っており、これは、今まで経験したことがない、自動車交通が減ってきているという状況を表している。
- ・ 高齢者の方々が増えてきて、公共交通の利用、人々の移動がかなり変化してきており、今後ますます変わっていく。その時にとても重要になるのが、地域内での移動である。東郷町内や近辺への移動、さらには車以外の手段で移動できるようにしていかなければならない。そのようなことを、この「社会環境の変化」で書いてほしいと個人的に思う。
- ・ 免許返納の実態等も持ってきて、免許返納者がこんなに増えてきており、地域の中での動を何とかしなくてはならない。一方で行政が全てをまかなうのは非常に厳しいので、だからこそ「共助」や「共創」というような仕組みが重要になってくる。そういうストーリーが出てきてもいいのではないかなと思う。
- ・ 一方で、東郷町は「持続可能自治体」であると思う。その意味は、若い女性が減らない。この強みを生かすっていうのはすごく大事だと思う。すなわち子育てしやすい環境、子育て世代にも使えるような公共交通があることがとても大事だと思う。せっかく東郷町のいいところがあるなら、そういうのもうまく入れてもらってもいいのかなという気がした。私の個人的な意見で、題材として町の方でご検討いただければと思う。

【祐福寺地区代表】

- ・ 私自身は公共交通を使っていないが、バス停で人が乗っているのを見てみると、「バスを使っているのだな」と思う。祐福寺から通勤・通学で駅へ行く人が多いと思うので、町外にある駅に上手くつなげていけると良いという考えを持っている。

【会長】

- ・ 東郷町にとって駅への移動手段は大変重要。36 ページに「町内各地域とつながり、広域的な移動を可能にする」と書かれており、引き続きしっかりと維持していくということかと思う。

【白土地区代表】

- ・ 「諦めている」という方が結構多いと思う。デマンドは東郷町からは出られない、巡回バスも赤池に直接行くことができない。実現が可能なのかどうか分らないが、例えば、デマンドタクシーで東郷町内から少し離れた場所の利用では、「走った距離×〇円」というような運賃指数みたい形で利用できればいいかなという感じはしている。
- ・ バスの場合、時間帯によっては大きな車両に全然乗っていないバスも走っているので、やはり車両の大きさも踏まえて、考えられる部分がないのか。
- ・ 白土地区は若い女性の方が結構多い反面、高齢者が非常に増えてきている。住みやすい東郷町とは何なのかというと、町内の移動がある程度スムーズであり、利用できる大きな施設がたくさんあれば、町外に出ていく必要はない。町の負担を考える前に、ある程度利用しやすい運賃体系も考えてもらえるとありがたいと感じる。
- ・ 全国的に公共交通は運転士の不足等の問題があり、ことが起こってからでは遅いので、町として、いろんな自治体の参考事例を見ながら準備が必要なのかなと感じる。
- ・ 「諦めている」人たちのいかにして救っていくか。利用したいが利用できない、そういう人たちは会議にも出ていかないこと構多いので、その出ていかない方々が、なぜ利用していないのか、利用できないのかということを考えていかなければいけない時期、時代ではと感じる。

【事務局】

- ・ 町外に出るとなると、本町だけでは解決できない部分もある。また、「諦めている」といった方々の声もできる限り拾えるようにしていきたい。来年度もう一度、住民懇談会を開催するので、できればそういった方も出席いただき、色々声を伺いながら、町全体としてどういう形が最適になるのか考えていきたいと思っている。

【会長】

- ・ 非常に重要なことをおっしゃっていると思う。自分が利用できる手段がなくなると、外出を諦める、諦めてしまう、諦めざるを得ない。そうすると、どんどん出かけようという気持ち薄れていく。先日、中部運輸局で開催されたシンポジウムでも同様な意見をお聞きした。東郷町の場合は、少なくともデマンドタクシーがあるが、それでも諦めざるを得ないというのがあるとすると、何故かを深掘りしないといけないと思う。例えば電話予約がすごくハードルが高いか、諦めざるを得ないような状況の深掘りをした中で、その対策は必須だと思う。
- ・ 乗り継ぎがなければ町外に出られない。役場やいこまい館まで来て名鉄バスに乗り換えれば赤池駅や豊田に行けるし、じゅんかい君に乗り換えれば日進駅へも行けるが、それを知らない、使い方が分からない。これまで車を利用された方々は、「乗り継ぐ」という行動を取れないことがある。よく言っているが、「乗り継ぎを文化にしなければいけない」と思っている。そういうことも含めて、いろんなことを周知し知ってもらい、あるいはそれを体験していただくことも必要と思う。
- ・ 諦めている方がいるなら理由を明らかにしてほしい。是非お願いしたいと思う。
- ・ アンケートの18ページ、「じゅんかい君について知っていること」で、「最寄りバス停のダイヤ」を知っている方が16.8%で5人に1人もいない。一方で「じゅんかい君が便利にな

る条件」として「運行本数が増える」が54.3%となっている。最寄りバス停のダイヤを知らないのに「運行本数が増えたらいいな」と思っている人が多くいる。これは、すごく直感的なもので、じゅんかい君＝少ない、というイメージがあり、引っ張られる必要はないが、そのイメージは大事だと思う。本質的に何が問題かをしっかりと明らかにしていく、そういう努力が必要だと思う。

【諸輪地区代表】

- ・ 公共交通は、高齢者にとって日常生活を支える手段であり、生きる術である。採算も大事だが、いわゆる生活保障のような観点からもやはり捉えていかなければ、弱者切り捨てになってしまう。是非、より良い方向へお願いしたいと思う。

【事務局】

- ・ 様々な観点からどういう形が町全体として最適かを議論しながら進めていきたいと考えている。

【会長】

- ・ 民間バスにしてもタクシーにしても利用者としては安い方がいいのは間違いない。ただ、安いということは「誰か」が負担している。その「誰か」というのを我々も認識しなければいけない。「誰か」とは交通事業者、運転手、町すなわち納税者、あるいは国税かもしれない。そこを認識した中で、その安めの運賃が実現しているという認識はしていかなければならない。あるいはそこをちゃんと情報発信していかなければならない時代だと思う。その上で、町民の方々が「東郷町はそれでいい」と決めていくことではないかと思う。一利用者としてのその視点はすごく大事で、それとは違った視点での評価、あるいは検討も重要だということだと思う。いずれにしても、その辺は皆さんで議論して決めていくべきことだろうなという気はする。

【諸輪地区代表】

- ・ 「誰か」が負担しなければいけないと思うが、町内外にたくさんの企業があるので、いろんなところに広告を出して、収入を得るのも良いのではという気もする。お金をどう工面していくかを考えていただきたいと思う。

【会長】

- ・ 広告収入を得る、あるいは企業からの協賛をもらう、すごくいい考えだと思う。東郷町の場合、何か公共交通に対してそういう収入はあるのか。

【事務局】

- ・ バスの車内と車体の広告はすでに実施しており、その広告収入は得られているので、更に他にどういった手段があるか、検討をしていきたい。他の自治体でも様々な手段で収入を得ていることは把握しているので、更にどういう形で稼ぐかことができるかの検討は継続して続けていきたいと考えている。

【会長】

- ・ 是非、事務局だけではなく地域の方々にご協力いただくことだと思うので、実現できるといい。ある自治体では、ふるさと納税の収入で自動運転バスを走らせている。そのような取組みもある。

【白土地区代表】

- ・ 私どもの地区の 60 代ぐらいの方から最近よく聞くのが、色々なものに税金が使われており、税金だけでこのまま維持していったらやれるのかという意見である。交通手段にかかる費用なので、「やむを得ない」という部分があると思うが、税金を払っている側からすると、「とてもじゃない」と思っている方が結構増えてきている。公共交通関係だけではなく、商業関係だけでもなく、町として今後どうしたらいいかを考えていかなければいけない時期かなと感じる。
- ・ 実現可能か分からないが、個人タクシーをやっていた方で、タクシーを辞めたという方がいれば、そういう方々を町で採用し、町としてのバスを持つというのも一つの方法ではないかと思う。民間のバス、タクシー事業者は商売なので、赤字を出すわけにはいかなし、何かでいき詰まった時に「撤退します」となると、とても困る。町として考えるべき時期に来ているのではないか。
- ・ 今現在元気な 60 代ぐらいの方々からそういう声が出ているので、非常に深刻に考えなければいけない時期がきたと感じた。

【事務局】

- ・ 皆様から税金をいただいて色々事業している中で、公共交通だけではなく、町としてどの事業にどれだけのお金を使うかについては、今後ますます重要になってくると思うので、常に検討は必要と思っている。そういった意見を参考にさせていただきながら、考えていきたい。

【会長】

- ・ 我々公共交通に携わっている立場としては、公共交通を充実させて、より多くの方々に利用いただきたいという方向性で検討しているが、一方で、納税者でも公共交通を使ってない方々にしてみれば、疑問がつくようなこともあり得るので、それは本当重要な視点だと思う。我々いつもそういう視点も持ちながら検討していかなければいけないと思う。
- ・ ドライバーを町の職員にしてはということだがどうか。

【事務局】

- ・ 現時点ではそこまで考えてない。ただ、例えば 1 月末に開催される尾三地区のバスフェスティバルで就職相談会ブースを設置し、交通事業者さんに声を掛けたりして、町としても雇用を創出する機会を作るなど、協力をしている。

【会長】

- ・ 町でドライバーを雇うとなると、かえって高くなってしまうと思う。全くドライバーが見つからないような、いわゆる中山間の自治体等の場合は、役場の公務員として担い手を確保するというのはあるのかもしれないが、東郷町の場合、そこは多分費用効率的にはならないのではないかと個人的には思う。
- ・ たくさん意見いただいたので、これらを踏まえながら更に検討を進めてほしい。

3 報告

(1) 巡回バス車両の更新について（資料4）

【事務局資料説明】

- ・ 質問・意見等と特になし。

(2) その他

【愛知県交通対策課】

- ・ 「愛環沿線イベントのご案内」のチラシについて説明。

【会長】

- ・ 公共交通で移動して、ぶらっと歩くと違うものが見えてくるので、是非ご参加いただければと思う。各地域の方々、是非お持ち帰りいただき皆さんにご周知だけきたい。
- ・ 質問・意見等を確認。
- ・ 事務局から何かあるか。

【事務局】

- ・ 次回、第4回地域公共交通会議を令和8年2月19日（木）の午前9時30分から開催。

以 上